

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部の理念・目的についてはHP等で社会に公開されているが、学生に対する周知徹底をさらに進める必要がある。	→本学部で毎年発行している雑誌『エコノフォーラム』やチャペルを通じて、経済学部の教育目標等の周知徹底。指標としては、チャペルにおける学部長からの講話回数やエコノフォーラム誌上での啓発回数。	A
2. 学部の目標等の定期的な検証は学部長室委員会や他の委員会で絶えず行われているが、今後もこれを継続していく。	→指標なし。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

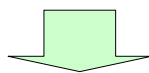
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 学生への周知徹底 (現状説明) 学部の理念については、適切であり、それを実現する目的については、社会等の変化を考慮しながら変更を必要とするが、2009年度に設定したばかりの現在の目的については、その実現に努力しているのが現状である。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 現在公表しているHPの内容改善を図るべく新たな企画(卒業生の紹介欄を作成し、定期的に更新する)を提案、2010年度から実施の予定である。 1. 経済学部チャペルでの啓発活動について 毎週5回、学内26名の教職員等による133回の年間総実施回数(学部長による合計8回の講話、新入生オリエンテーション<5回>、卒業生送別チャペル)。なお、講話は下記『エコノフォーラム』に掲載。『エコノフォーラム』(2010年3月に5,000部発行し、オープンキャンパス等でも高等学校・受験生・保護者にも配布)誌上での啓発。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 2. 学部長室や各種委員会で審議した内容を教授会に諮り、改善に向けての努力を行っている。上記のHP改善などはその一例である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目0.0.1	経済学部75周年を記念して開催された「エコノフェスタ：学生がよむ経済～現実と理想～」を開催し、シンガポール国立大学、延世大学(韓国)、慶応義塾大学、上智大学からの参加を得ることで、大きな成果が得られた。その内容は『毎日新聞』(2010年1月4日特集号)に掲載され、本学部の理念・教育状況の社会的発信に大きな役割を果たした。他方、その全記録は『Econofesta論文集』(2010年3月)として出版(1,000部)され、近隣高校や継続・提携高校などにも配布された。
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	



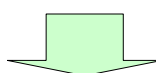
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部の理念・目的についての啓発活動等が着実に進展しています。

【学内委員】

○小項目0.0.1の現状説明における(理念・目的)は、理念・目的そのものをお書きください。

○理念の浸透に関して教員への徹底に関する働きかけも記述してはどうでしょうか。

○学部の理念・目的を学生に周知徹底させる取り組みが評価できます。次の段階として、その理念・目的が経済学部生に浸透していることが量れるような、中期的な目標・指標の設定が期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
